

2022年9月4日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第65巻第21号(通算3303号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさま ひととも
神様がすべての人と共に
あかし きょうかい
おられることを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ 5:5)

せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい
聖霊降臨節 第14主日礼拝

れいはい ちゅうけいはいしん
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
しちょう ぼしよとも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう 前奏(黙禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば 招きの詞 しよ イザヤ書 しよ 42章 せつ 2-4a節

さんびか しんせいさんびか 賛美歌『新生讚美歌』363番「キリスト教会の主よ」(©バプテスト連盟)

せいしよ ふくいんしよ 聖書 マルコによる福音書 しよ 12章 1-12節

いの お 祈り

さんびか ばん たたか つか たみ 賛美歌 21-373番「戦い疲れた民に」(©JASRAC)

メッセージ 「くすぶる灯心の火を消さず」 うしだ だし ぼくし 牛田 匡 牧師

さんびか ばん 賛美歌 21-543番「キリストの前に」(©教団讚美歌委員会)

ユーカリスト うしだ だし ぼくし 聖餐 牛田 匡 牧師

きょうどう いの 共同のお祈りと、平和のあいさつ

さんびか ばん 賛美歌 524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

こうどくぶん しゅ いの 交読文による「主の祈り」

ささげもの ささげもの 献げ物 (*)

はけん ばん かみ めぐ 派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく うしだ だし ぼくし 祝福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん 後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほうこく ページ 報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ 受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 イザヤ書 42章 2-4a節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

²彼は叫ばず、声を上げず、巷ちまたにその声を響かせない。

³傷ついた葦あしを折らず

くすぶる灯心とうしんの火を消さず

忠実に公正をもたらず。

⁴彼は衰おとろえず、押し潰つぶされず

ついには、地に公正を確立する。

聖書 マルコによる福音書 12章 1-12節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹イエスは、たとえで彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園かきを造り、垣を巡らし、搾り場しぼほを掘り、見張りのやぐらを建て、これを^a農夫たちに貸して旅に出た。²収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を受け取るために、僕しもべを農夫たちのところへ送った。³ところが、農夫たちはこの僕しもべを捕まえて袋叩きにし、何も持たせないで帰した。⁴そこでまた、他の僕しもべを送ったが、農夫たちはその頭をなぐ殴り、侮辱した。⁵さらに、もう一人を送ったが、今度は殺した。そのほかに多くの僕しもべを送ったが、ある者はなぐ殴られ、ある者は殺された。⁶その人には、まだ一人、愛する息子がいた。『私の息子なら敬うやまってくれるだろう』と言って、最後に息子を送った。⁷農夫たちは話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、財産はこちらのものだ。』⁸そして、息子しもべを捕まえて殺し、ぶどう園の外に放り出した。⁹さて、ぶどう園の主人は、どうするだろうか。戻って来て、農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるに違いない。¹⁰聖書にこう書いてあるのを読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石

これが隅すみの親石となった。

¹¹これは、主がなさったことで

私たちの目には不思議なこと。』

¹²彼らは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと気付いたので、イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。それで、イエスをその場に残留して立ち去った。

(脚注 a:あるいは「小作人」)

《先週のメッセージより》2022年8月28日メッセージ

「あなたは何をしてほしいのか」より

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 10章46-52節

今回のお話は盲人の癒しの物語でした。当時の視覚障がい者は、ユダヤ人社会の中で、目が見えず労働できないというだけではなく、宗教的にケガレた存在として差別され排除されていた存在でした。その彼が、イエス様がすぐそばに居ると知って、「私の苦しみを分かってください」と叫びました。周りにいた人々は彼を叱りつけましたが、それは単にうるさいというだけではなく、障がい者にはそもそも「発言権はない。律法違反。イエス様と会うにはふさわしくない」という当時の常識的判断に基づくものだったと思われます。ですが、彼は諦めませんでした。たとえ常識外れ、律法違反であったとしても、彼は叫び続けた結果、イエス様の前に連れて来られ、「何をしたいのか」と尋ねられ、彼はためらうことなく「再び見えるようになりたい」と答えました。周りの人からどう見られ、どう批判されようとも、そんなことは気にしない彼の心底からの願いに対して、イエス様は「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われました。これは「あなたはあなたの人生を、これからも生きていきなさい。あなたの本心への信頼と、周りの人々への信頼によって起こしたその行動、生き方が、あなたを変えたのだ」という意味なのだと思います。旧来の社会の中で排除され孤立していた彼が、思い切って声を上げ、イエス様の前に進み出たことを通して、彼はまた新しい共同体との関係性の中に生きる者と変えられていきました。

「あなたは何をしてほしいのか／何がしたいのか」。簡単そうなこの問いに、私たちはどれだけ素直に答えているのでしょうか。とりわけ、立場を重んじる日本社会では、「本心ではやりたくないけれど、立場上こうするしかない。悪いとは分かっているけど、やむを得ない」というようなことがよくあるのではないのでしょうか。始められてしまった戦争が、なかなか止められないのも、「負けるわけにはいかない」という立場上の問題、メンツの問題なのかもしれません。「あなたは何をしてほしいのか」、この問いに素直に答えることができなくなる時、人間は自身の心を見失って暴走していつてしまうのではないのでしょうか。混乱と差別、様々な抑圧に満ちたこの世界に、平和を作り出していくために、私たち一人一人が自分自身の中に平安を作り出すこと。立場ではなく自分の本心に素直になること。それが地上に平和を作り出す、一歩になるのだと思います。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 8月28日

主日礼拝出席 大人5名 子ども2名 中継動画再生数 8回
 献金 大人4,000円 子ども200円 感謝

礼拝後に釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、161個のおにぎりを作って、釜ヶ崎・いこい食堂にお届けし、四角公園にてお配りいたしました。感謝。

◎次週 2022年9月11日(日) 聖霊降臨節第15主日礼拝

招きの詞 詩編 62編 11-13a節

聖書 コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章31-13章13節

メッセージ 「人と人をつなぐもの」牛田匡牧師

賛美歌 21-562番(©JASRAC)、21-201番(©JASRAC)、21-454(©教団)

礼拝はインターネットで中継配信いたします。礼拝後に8・9月期の「教会を考える会」を予定しています。



◎お知らせ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染爆発「第7波」が続いています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・9月2日(金)から9月8日(木)にかけて、大阪・シネアート心斎橋にて、「第15回・関西キア映画祭2022」が開催されています(京都会場は9/23-25)。性のあり方の多様性をテーマにした映像作品を上映する映画祭です。詳細は、同映画祭のウェブサイト (<https://kansai-qff.org/2022/>) をご参照ください。
- ・9月18日(日)、19日(月)にかけて部落解放センター主催の「ユースゼミナール」が開催されます。参加費無料です。18日の講演会は、尼崎教会で行われますが、オンラインで遠方から受講することもできます。翌19日は奈良県御所市にある水平社博物館の見学、フィールドワークなどがあります。ご参加希望の方は9月5日(月)までにお申し込みください。

<https://forms.gle/nhneqhoKaRV9uvVD7>



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
9/11	牛田牧師	教会を考える会
9/18	岡嶋伝道師	敬老の日礼拝・聖書を読む会? (14時～、河内地区壮年会@小阪教会?)
9/25	牛田牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援
10/2	水谷牧師	ユーカリスト

主催:部落解放センター
 第24回 ユースゼミナール(仮)
 テーマ
 "水平社宣言100年"
 "部落女性"

部落差別は日本に暮らす人ならだれにでも関係のある課題です。そんなことはない、私は部落差別なんてよく知らないし、それで困ったことはないと思うでしょうか。しかし、部落差別について学び、考えていくと、自分の中にある偏見や差別に気づくことがあります。また、自分自身が差別的な言葉にさらされることがあります。いまでも差別はあるのです。

今年は、川崎那恵さんを講師にお招きし、『福音と世界』3月号に掲載された「部落女性」という視点から、部落差別についてお話を伺います。差別の中を生き抜いた女性の姿から、一緒に部落差別問題を考えていきましょう。講演の翌日は、今年100年を迎えた水平社宣言について学ぶため、水平社博物館の見学、フィールドワークをします。その後、学んだことや考えたことを分かち合い、理解を深める時間をもちます。部落差別について学びたい方も、まだよくわからないという方もぜひいらしてください。一緒に学び、考えていく先で、差別からの解放の道を一緒に探しましょう。

部落解放ユースゼミナール 実行委員長 松村光司

9/18(日) 19:00～
講演会(尼崎教会&オンライン)

9/19(月) 10:15 集合
フィールドワーク&全体会

かわさき ともえ
講師:川崎 那恵さん
1983年大阪の被差別部落出身の両親のもとに生まれる。大阪府立大学への入学を機に部落問題を学び始める。現在も、仕事と子育ての傍ら、執筆活動や研究会への参加を通じて、部落差別とは?部落解放とは?と考える。雑誌『福音と世界』2022年3月号(特集 部落解放—歴史と可能性)に「部落女性」をテーマに寄稿。

会場:日本基督教団 尼崎教会
〒660-0892兵庫県尼崎市東難波町3-11-7
TEL:06-6481-2665
最寄り駅:尼崎駅(阪神線)
東難波町3丁目(バス)

水平社博物館
〒639-2244 奈良県御所市柏原235-2
最寄り駅:橿原駅前駅(近鉄線)
ホームページはこちら

申し込みは上記QRコード 又は
Email: blc.youthseminar@gmail.com

新型コロナウイルスの感染状況によってプログラムが変更になる場合がございます。ご了承ください。